

新幹線新駅シンポジウム開催

～観光先進県実現に向けた“ふじのくに”の挑戦～

2月15日、静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニアに420名の聴講者を迎え、新幹線新駅に関するシンポジウム「観光先進県実現に向けた“ふじのくに”の挑戦」を開催しました。

<開催概要>

日時：平成29年2月15日（水）13：30～16：15

会場：しずぎんホールユーフォニア

主催：静岡県

後援：一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会

○開会・主催者挨拶 静岡県知事 川勝平太

○基調講演 「観光立国への戦略的視点」

一般財団法人 日本総合研究所会長 寺島実郎

○鼎談 「富士山静岡空港を活用した観光戦略」

一橋大学大学院商学研究科教授 山内弘隆

中央大学経済学部教授 山崎 朗

静岡県知事 川勝平太



○主催者挨拶(川勝知事)



- 一昨年には1,970万人、昨年には2,400万人を越す方が日本にお越しになり、そして、2020年には少なくとも4,000万人、2030年には日本の人口の半分である6,000万人の方が、日本を訪れることになる。
- 本県が世界に誇るべきは富士山であり、茶畑であり、和食である。特に食の文化、食の都は、静岡県に尽きるといふことで、いろいろな人がたくさんお越しになるようになった。
- 地方空港で、外国人乗降客数が一番多いのは静岡空港であり、拠点港に選ばれた清水港には、今後、多くのクルーズ船の寄港が見込まれる。
- まさに静岡は、今から世界に羽ばたく時代を迎えている。

○基調講演 「観光立国への戦略的視点」(寺島会長)

- 観光の付加価値をどうやって高めるのかについて、戦略的な視点を持つべき。いまだにインバウンドを増やすというだけの発想で一生懸命、観光、観光と言っている。日本の産業、物流、人流に、今何が起きているのかしっかりと認識を固める必要がある。
- シンガポール、香港ともに、観光をひとつの産業力にして、国民を豊かにするプロジェクトをつくり、国民を豊かにする基盤のインフラにしている。サービス産業の高度化の中核的なプロジェクトとして、観光業でしっかりと飯が食っていけるような産業基盤に変えていかなくてはならない。
- 「国道16号の団地」と言われる東京を取り巻くゾーンは、高齢化社会という問題を抱えている。観光は、そのような方たちの移動と交流の受け皿的な役割を果たす。静岡県は東京と名古屋に挟まれ、健全な高齢化社会をつくる受け皿になるプラットフォームを持っている。
- 富士山静岡空港は、新幹線に隣接しているところがポイント。静岡空港が今後さらに重要になる理由はコーポレートジェットを受け皿になり得る空港であるから。コーポレートジェットで移動する世界のビジネスリーダーのテーマは経営会議である。富士山を背負い、観光ポテンシャルの高い静岡空港が、今後、日本でグローバル化していく多国籍企業の経営会議の受け皿になることが求められてくる。



○鼎談 「富士山静岡空港を活用した観光戦略」 (山内教授、山崎教授、川勝知事)



山内教授



山崎教授



川勝知事(コーディネーター)

山内教授：将来的には、東海道新幹線のぞみ機能がリニアに移行して、東海道新幹線は観光線になる。そのなかで、地域の需要を取り込んでいく姿勢が必要になる。その意味では、空港の下の駅もひとつの有力な候補になる。

世界的に見ても、空港と鉄道、特に高速鉄道は相反するものではなく、一体的に使うととても効果が上がる。

首都圏の西側の需要を考えると、静岡空港が補完的に機能することは十分あり得る話である。

山崎教授：新幹線地下駅には賛成である。

ヨーロッパの都市では、最初から鉄道と空港の、ある種のコラボレーションが大前提なうえに、もともとグローバルな発想をしている。

山内教授：人口は減っていくかもしれないが、観光による空港の容量の必要性はずっと続いていく。その意味で、首都圏空港の機能補完の重要性がある。

東日本大震災では、福島空港と花巻空港がものすごく力を発揮した。空港がなかったら災害復旧も進まなかった。人の援助も進まなかった。静岡空港のポテンシャルはある。

山崎教授：静岡県、愛知県の東部、神奈川県西部、山梨県の一部、約600万人から800万人の人たちが使う空港として、静岡空港を捉え直してみたら、今の数字で収まる話ではない。

山内教授：コーポレートジェットで来た人にとって、新幹線でアクセスできるという魅力はかなりある。

山崎教授：グローバル化により、多様な地域と結び付くときに空港が必要であり便利。空港を活用しているところが、今、人を集め、企業が張り付いてきて、観光客がやってきている。

山内教授：静岡空港を活かすという意味では、新幹線との結びつきが非常に重要になる。

川勝知事：富士山静岡空港、この真下に駅をつくることの必要性を頭のてっぺんからつま先まで感じました。本当にありがとうございました。

■参加者の声■

- 外国人観光客の受け入れ空港として、静岡空港は極めて重要。併せて新幹線との接続は不可欠。空港と鉄道の一体サービスで観光客の利便性が向上し、静岡空港が受け入れ拠点となる。(男性、60代、静岡市)
- 空港と新幹線両方のポテンシャルが上がると思う。便利な空港及び駅になると思う。(男性、50代、牧之原市)
- 静岡空港の真下に新幹線駅が出来れば、利用客が増加すると思う。(男性、70代、浜松市)
- 広域からの空港利用、集客が期待でき、新たな観光需要、観光ルートの構築が期待できる。それによる誘客で活性化が期待できる。特に海外からの観光客の取り組みが期待できる。特に海外からの慣れない土地には鉄道で行けることの安心感も大きいものである。(男性、40代、愛知県)
- 空港と新幹線が直結(5分以内)できれば、国際線の就航も増えると思う。そうすれば、首都圏や中京圏の補完空港として役立ちそう。(男性、40代、焼津市)
- 人の動きが変わる(例えば、熱海、横浜などの人が静岡空港を利用する可能性が高まるのではないかと)、災害発生時には有益。(男性、40代、焼津市)
- 世界を対象に考えるべきで、ぜひ実現してもらいたい。クルーズ船とセットで対応する。美しい湾と日本一の富士山をつなげて活かす。(男性、70代、静岡市)
- 地域の活性化、日本と言えば静岡空港、静岡空港と言えば日本。色々な面での交流、物流の拠点になればと思う。防災、災害体制の拠点としてもたいへん重要だと思う。(女性、70代、牧之原市)
- 地域発展にはなると思うが、周辺開発のタイムスケジュールが合わないとか中々難しいし、時間がかかることになる。ただ、観光立国への第一歩として意味はあると思うが、その効果が現れるのに時間がかかる。(男性、50代、愛知県)
- 観光交流客の利便性向上にはなるが、それが交流客数の増加に直結すると考えるのは現実的ではない。観光の目的となりうるようなソフトを用意しないと通過県としての現状に変わりはない。(女性、30代、神奈川県)